

1. 評価結果概要表

作成日 2007年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0372200303		
法人名	社会福祉法人紫波会		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	〒028-3307 岩手県紫波郡紫波町桜町三本木46-1 (電話)019-676-5777		
評価機関名	特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7-30		
訪問調査日	平成19年10月29日	評価確定日	平成19年12月26日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤	人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建て	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	その他実費負担 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	900 円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	4 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 88.3 歳	最低 79 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩手県中央病院付属紫波診察センター
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、社会福祉法人紫波会が運営する事業所の1つである。JR東北本線日詰駅から徒歩10分程、また国道4号線にも近く交通の便はよい。周辺には法人が運営する特別養護老人ホームや各事業所が、また県立の診療所や民間の脳神経外科があり医療にも恵まれている。職員は、利用者の思いを大切に、理解することを重要なこととして捉え、一緒に楽しみながら過ごしている。職員も利用者も、ともに笑顔が見られ素敵なホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、介護計画の評価・見直しや、家族の意見・要望、金銭管理、地域との交流等についての改善課題が見られたが、今回の外部評価では介護計画の見直しの対応に一部改善が見られるも、広報誌に「声の欄」を設け利用者・家族の意見要望を反映したり、金銭管理も必要な処理確認を行うなど全般的な改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価についてスタッフ全員が取り組み、この機会を利用し勉強すべき部分についてチェックするという前向きな姿勢で話し合いを行うなど評価の効果を挙げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの活動状況や研修参加報告、行事計画について報告、意見交換を活発にしている。委員は利用者、家族、行政(包括支援センター)、民生委員で構成し、議題に次年度計画などテーマを設定して話し合いなどを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に利用者の健康状態や日常生活を報告し安心してもらうため利用者の様子を記載したケース記録の写しを1カ月毎に渡しており、家族からは好評を得ている。また、広報誌「やすらぎ」に利用者・家族の「声の欄」を設け、家族が日頃思っている事を皆さんに知らせるような工夫をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	ホーム周辺は、法人所属の介護サービス事業所や、2つの医療機関、アパートその他事業所等が多く、立地的には住宅街とはいえない環境にあるため、地域住民と日常での行き来する交流には厳しい状況にある。しかし、地域や町の行事の産業まつり、芸術祭、夏祭りなどには積極的に出かけるようにしている。

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームを開設した翌年の平成13年に職員同士の話し合いにより「ゆっくり、いっしょに、えがおで」を大切とするホーム独自の理念をつくりあげている。また理念の趣旨をパンフレットにもわかりやすく記述している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスの導入に伴い現行理念の考え方について改めて「やすらぎ会議」(月1回開催)で確認するとともに、地域との関わりを含め、理念の具体化の取り組みのため何をすべきかなどを、ブレインストーミングを行うなど、理念の意識づけに努力している。	○	「職員の中でどのようなホームにしたいのかがはっきりとイメージができていない」としているが、開設後7年目を迎えており、又地域密着型サービスという概念の導入により住民に身近なホームとして特徴ある運営の確立が大切と考える。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会には同一敷地内にある特別養護老人ホームが法人を代表して加入している。グループホームは地域イベントの産業まつりや芸術祭に利用者と一緒に出かけたり、日常的な散歩や買い物を通して地域交流を行っている。	○	グループホームの周辺は、医療機関や民間事業所、系列法人事業所などの立地環境にあることから、いわゆる地域活動への参加・交流を深める環境には厳しいが地域密着型としての機能を活かす工夫に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を全職員に配布し、それぞれの意見を出してもらうなど、評価の意義について理解を深めている。特に、今回の自己評価を通じて「権利擁護」「虐待防止」関係の理解を深める研修機会を設けるきっかけになったとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員には民生委員、地域包括支援センターの職員、利用者、家族を委嘱しているが、利用者家族は毎回異なるようにしている。内容は、ホームの活動状況や事業計画等について意見交換、話し合いが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員や行政との交流の場がありそこで情報交換を行うほか、町内の地域密着型事業所4箇所による「紫波町地域密着型サービス事業者懇談会」がありその場を通じて話し合いをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の毎日の様子を記録した「ケース記録」の写しと、その様子をまとめた手紙を添えて毎月家族へ渡しているほか、年4回発行している広報「グループホームやすらぎ」で行事の様子や職員の異動について報告している。また、利用者家族が来所した際には金銭管理について報告し、確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置しているほか、家族会を設置しており、行事の際に話し合いの場を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の他の事業所へ異動した場合、その職員がホームへ訪ねてきたり、逆に利用者が施設へ遊びに行ったりと、なじみの関係が継続されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修への参加のほか、外部研修や会議等への参加、それらの伝達報告が行われている。また資格取得を希望する職員には、勉強会の参加援助や、受講料負担の支援など支援体制が整備されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県GH協会の定例会への参加のほか、町内の同業者による「地域密着型サービス事業者懇談会」に参加し交流の幅を広げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	実際に入居する前に何度かホームで日中を過ごしてもらったり、利用者が馴染めるまで家族の面会を頻りに依頼したり、雰囲気馴染むよう家族の協力を得ながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	知識や技術を有する先輩として、大工仕事、理容、畑仕事、庭の手入れ、郷土料理作りなど、利用者と共にすることで、利用者のこれまでの経験を生かし、また利用者から学ぶ機会となっている。なお、一緒に作業などを終えたときは思いが伝わる感謝の言葉掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を導入し、日常の観察で得られた情報や、利用者の生活歴や周辺情報を整理し、職員内でその共有を図っている。また、センター方式の導入によりコミュニケーションを深めるきっかけとなったとしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式で得られた情報をベースに、家族やスタッフなどの意見やアイデアを加え、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース記録はきちっとまとめられており、またモニタリングも毎月実施している。ただし、これまで介護計画の見直しは、3ヶ月ごとに実施していたが、今年度からセンター方式を導入したことにより、それに基づく利用者情報の整理まとめに時間等を要していることから介護計画の見直し時期が遅れているという。	○	ケース記録やアセスメントはとても細やかに整理されており、今後の有効な情報であり、これまでの日々の取組みを活かしながら、介護計画へ反映する仕組みを整えていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の日常的な健康管理の実施や通院支援を実施している。このほか利用者個人の買い物への支援など必要に応じて対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に応じ、今までのかかりつけ医への受診の継続、あるいは協力病院の地域診療センターへの受診を支援している。隣接して脳神経外科があり、認知症の症状等について相談している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携の指針を策定し、利用者の重度化に対応するため事前に利用者本人や家族から希望や意見を確認している。なお、隣接に医療機関があるため終末期対応は行わないとしている。	○	より安心できる生活を支援するために定期的な医師による往診の機会を設けるなど、これまで以上に協力病院との連携を図ることが大切と考える。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護に関するマニュアルを整備し、対応のあり方を確認している。広報への写真掲載についても入居する際に同意を得ることとしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が喫煙できるスペースがあったり、その日の気分や体調に合わせて散歩やドライブに出かけたりと、利用者それぞれに合った時間の過ごし方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に買い物に出かけ、食材を選んで献立を考えたり、米を砥いだり、調理を手伝ってもらうなどしている。外食に出かけることも楽しみの一つとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎週月・水・金曜日を入浴日としているが、体調や希望に合わせて時間や日にちをずらすことも可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草取りや日曜大工、掃除など、日々の生活の場において利用者のできること、得意なことを発揮する場面をさりげなく作りながら、感謝の気持ちを言葉に表すことを大切にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所のスーパーに買い物に出かけたり、車で産直や滝を見に出かけるなど、利用者の希望に沿った支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていない。感知センサーなども無いため職員が連携し声をかけながら見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	にいやま荘防火協力隊と呼ばれる地域の協力体制が整っている。避難訓練は夜間訓練とともに実施しており、ホーム内には非常通報装置が備えられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については本部の栄養士によるアドバイスを毎月受けている。食事・水分の摂取については必要のある人はチェック表にて毎日確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな天窓から差し込む日差しが心地よく暖かな雰囲気を作り出している。広間には観葉植物を置いたり仕切りを設けて、利用者が落ち着いて生活できるように空間づくりを工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事前に利用者本人や家族に案内し、それぞれに馴染みのものを持ち込み心地よい部屋となっている。		